

事業所名

りんくる真栄原

支援プログラム

作成日

7年

2月

27日

法人（事業所）理念	個人個人には得手不得手があることから、得意な事は伸ばし、苦手な事はチャレンジさせて自己肯定感をつけていく。特別だから通える。と思えるような施設にしていく。				
支援方針	児童が将来自立できるように、寄り添いながら心身の成長に寄与する支援を行う。また、保護者が思う児童に対しての不安や希望等の思いを受け止めながら、事業所での支援に留まらず家庭環境もより良い物になるよう、相談援助も交えながら支援を行う。				
営業時間	9時	0分	18時	0分	送迎実施の有無 あり なし
支 援 内 容					
本人支援	健康・生活	児童の表情や健康状態に気を配り、心身の変化に気づけるよう細やかな配慮をしていく。知育玩具や野外活動を通じて楽しみながら生活力を育み、視覚的な工夫を取り入れたスケジュール・時間管理など、個々に合った生活習慣の定着を促す。心身ともに健やかに成長し、挨拶、整理整頓、身だしなみ等、自立した日常生活を送れるように支援する。			
	運動・感覚	音楽に合わせて楽しく体を動かす「ダンス療育」で運動能力を高め、手足の指先まで意識した動きで脳を活性化させる。ダンスやストレッチを通じて、正しい姿勢を維持するバランス能力や体幹筋力を養う。 また、「野外活動」を通じて自然環境や公共施設に触れ、五感を刺激しながら感覚統合を促し、心身のリフレッシュを図る。遊びを通じて運動感覚を育み、課題に挑戦することで問題解決力を伸ばす。さらに、タイピング練習により微細運動や目と手の協応運動を強化し、指先の器用さを高める。			
	認知・行動	療育支援教材やパソコンを活用し、学習や知識を深めながら社会で必要なスキルを習得する。応用スキルとしてWordやExcel、プログラミングを学び、ソーシャルスキルトレーニング（SST）を通じて適切な行動を身につけ、社会生活への準備を進める。また、プログラミング活動では、課題解決の手順を考えることで論理的思考力を育成。活動の振り返りを行い、支援者のポジティブフィードバックを受けることで自己認識を深め、成長を促す。適切な行動を積極的に褒めることで、肯定的な学びを強化する。			
	言語コミュニケーション	グループ療育やディベートでコミュニケーション能力や問題解決力の向上。異年齢児童との交流を行うことで対人交流技能の向上を目指す。言語でのコミュニケーションが苦手な児童には、絵カード・ボディランゲージ・筆談等あらゆる方法を用いて相手に伝えたいと言う子ども達の意欲を育む支援や、パソコンでのタイピングスキルを習得していき、様々な角度からコミュニケーション力向上を図っていく。			
	人間関係社会性	日々の活動を通じて個々の得意なことを見つけ、失敗や挑戦に前向きになれる声かけを行い、児童の気持ちに寄り添いながら信頼関係の構築を支援する。支援者がモデルとなり、挨拶や会話の練習を繰り返し行い、小集団から徐々に集団へと移行しながら社会スキルを身につける。共同遊びへの発展を支援し、他者との関わりを深める。児童同士のトラブル時には職員が仲介し、原因を明確にしながら感情の理解を促し、「相手の立場を考える力」を育む。解決策を共に考え、当事者同士が話し合う場を設けることで、自己理解と他者理解を深め、健全な人間関係の構築を目指す。			
家族支援	児童に関する事に限らず、兄弟姉妹、親子関係など家庭環境の事などについての相談援助も実施する。	移行支援	本人が望む環境(学童、塾、習い事等)に移行できるように、日々訓練をしていく。中学や高校に上がる児童には、進学するに当たってのマナーや心得、学習面でも支援し、スムーズな移行ができるよう支援する。		
地域支援・地域連携	教育機関、医療機関等と連携を取り、事業所での児童の様子などを伝え、本人の困り事・得意な事を情報提供しながら、本人にとって良い環境になるよう取り組んでいる。	職員の質の向上	定期的に社員研修を開催し、経験が浅い職員に対し、先輩社員から様々なケースの対応方法などを話し合う場を持つ。本や社内外の研修に参加して知識を高める。		
主な行事等	年に1度、発表会という場を設け、日々の活動に取り入れているダンスやパソコン学習などを保護者や関係者に向けてお披露目している。正月、クリスマスなど、その時期に合わせた活動も取り入れ、季節毎の行事も感じてもらうようにしている。				